

# 11月の銅マーケットレポート及び12月の見通し

橋本アルミ（株） 橋本健一郎氏



## 予想レンジ

LMEセツル	4400—4900ドル
建値	570—640円
為替	119~122円（1か月間TTM）

弱い

弱い

変わらず

## ■概況

前半は、資源大手グレンコアの銅減産が45万トンまで拡大する旨発表したこと、ECBの追加金融緩和予想、などのプラス材料もあったが、中国の第13次5カ年計画（2016-2020年）の声明でGDP目標は+6.5%成長と改めて景気後退が浮き彫りになった事、10月の中国社会融資総量は前月比63%減の4767億元で2014年7月以来の低水準。前月は1兆3000億元。与信低迷。10月の中国鉱工業生産は前年比5.6%増、予想は5.8%増などを受けてDOWN。

11月14日時点での4825ドル（セツル）と月初価格より312.5ドルDOWNの前半締めとなった。

後半は、中国の大手銅製錬10社（江西銅業、雲南、金川など）が2016年に35万トンの協調減産を行うことで合意したと発表したこと。減産と同時に政府に備蓄購入も呼びかけていることなどのプラス材料もあったが、パリ同時多発テロやチリコルコバの中国向け銅のプレミアムが26%下げの98ドルと6年ぶりの安値に落ち込んだこと、11月の中国製造業PMIは48.6に上昇も9か月連続で50割れだった事を受けてDOWN。

12月1日現在、後半スタート価格から169.5ドルDOWNの4595.5ドル。建値61万円のスタートとなつた。

## ■前月の経済指標

◆月間のドル/円レート（TTS）121.72 → 124.07（円）

## ◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると自動車生産台数は前年比-0.5%の81万7080台であった。

## ◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると自動車販売台数（軽除く）は前年比+0.3%の23万9815台。

## ◆新設住宅着工戸数

国土交通省統計によると新設住宅着工戸数は前年比-2.5%の7万7153戸であった。

## ◆貿易関連指標

### 輸出

財務省貿易統計によると輸出は前年比で電気銅が-15.8%の3万209t、スクラップが-13.9%の2万5302t。

## 輸入

輸入は電気銅が前年比+7.1%の3612t、スクラップ+64.8%の9845t。

## ■前月の国内指標

日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移（速報）によれば前年比-10%の6万5350t。

## 日本電線工業会発表の出荷速報（推定）

銅電線出荷量は、前年比-4.4%の6万4200tであった。

## ■概況

### 【自動車生産】

10月の四輪車生産台数は813,110台で、前年同月の817,080台に比べて3,970台・0.5%の減少となり、16ヶ月連続で前年同月を下回った。

10月の車種別生産台数と前年同月比は次のとおり。

乗用車 - 689,929台で5,951台・0.9%の増加となり、16ヶ月ぶりにプラス。このうち普通車は432,274台で34,719台・8.7%の増加、小型四輪車は135,603台で4,801台・3.4%の減少、軽四輪車は122,052台で23,967台・16.4%の減少。

トラック - 111,492台で8,380台・7.0%の減少となり、6ヶ月連続のマイナス。このうち普通車は49,152台で6,874台・12.3%の減少、小型四輪車は27,942台で177台・0.6%の増加。軽四輪車は34,398台で1,683台・4.7%の減少。

バス - 11,689台で1,541台・11.6%の減少となり、4ヶ月連続のマイナス。このうち大型は872台で139台・13.7%の減少、小型は10,817台で1,402台・11.5%の減少。

10月の国内需要は380,089台で、前年同月比4.1%の減少であった。

（うち乗用車315,192台で前年同月比4.0%の減少、トラック63,875台で同5.0%の減少、バス1,022台で同8.3%の増加。）

輸出は前年同月比3.8%の増加。（実績）

### 【自動車販売】

11月の国内自動車販売台数（軽は除く）は23万9815台で前年比+0.3%、2ヶ月連続プラス。

内 乗用車 -0.4%

貨物 +3.9%

バス +20.4%

## (つづき)

## 【住宅着工数】

- 平成27年10月の住宅着工戸数は77,153戸で、前年同月比で2.5%減となった。また、季節調整済年率換算値では86.2万戸(前月比4.3%減)となつた。
- 利用関係別にみると、実数値では、前年同月比で持家で増、貸家、分譲住宅で減となつた。季節調整値については、前月比で分譲住宅で増、持家、貸家で減となつた。

(持家)

前年同月比では6か月連続の増加(前年同月比2.4%増、季節調整値の前月比では2.9%減)。

(貸家)

前年同月比では6か月ぶりの減少(前年同月比2.6%減、季節調整値の前月比では12.4%減)。

(分譲住宅)

前年同月比では2か月連続の減少(前年同月比9.5%減、季節調整値の前月比では3.9%増)。

(分譲マンション)

前年同月比では2か月連続の減少(前年同月比17.2%減)。

(分譲一戸建住宅)

前年同月比では3か月ぶりの減少(前年同月比1.1%減)。

## 【伸銅品生産】

伸銅品生産 前年比-10%の6万5350t 8カ月連続マイナス

内需 5万2731t -8.2% 12カ月連続マイナス  
輸出 1万379t -17.9% 4カ月連続二桁マイナス

銅条 1万9898t -14.3% 6カ月連続マイナス  
黄銅棒1万5407t -1.5% 15カ月連続マイナス7か月連続マイナス 昭和52年9月以来の低水準。

## 【輸出】

電気銅輸出が前年比-15.8%の3万209t。

銅スクラップは-13.9%の2万5302t。

## 【輸入】

電気銅が+7.1%の3612t。

スクラップは+64.82%の9845t。

## 【見通し】

自動車は生産が前月に続き減少の-0.5%。11月の国内販売台数が前年比+0.3% 生産が16カ月連続マイナス、販売が2カ月連続プラス。

生産が1年間以上前年割れとなつたが減少幅は縮小。販売の方が微増ではあるが2カ月連続プラスに。

今後販売のプラスが続くか注視が必要。

- 住宅着工の動向については、前年同月比で8か月ぶりの減少となつた。分譲マンションについて前年同月に大規模物件の着工が多くあつたことが要因である。貸家の着工については6か月ぶりの減少となつたが、依然3万戸を超える水準で推移しており、堅調を維持している。

一方、昨年4月の消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響が大きかった持家は前年同月比

で6か月連続の増加となるなど、全体として持ち直しの傾向が続いている。

引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。

- 伸銅品 8カ月連続マイナスの前年比-10%。昭和57年10月以来の低水準。

需要の多い銅条が、6カ月連続マイナス。黄銅棒が16カ月連続マイナス割れ、輸出も前月に続き減少が続き4カ月連続二けたマイナス。

輸出が6カ月連続マイナスの-17.9パーセント。伸銅品生産は輸出に支えられてきた面もあり今後の輸出動向注視。

- 電線 輸出が5カ月連続二桁減少。期待の建設電線のマイナス受けて全体として減少

- 銅輸出は生産減少による国内玉の不足から地金、スクラップ共に内需の発生難を受けて減少した。

- 銅輸入は、生産減少に生産減少による国内玉の不足から地金、スクラップ共に内需の発生難を受けて減少した。

## 【スクラップ需給予想】

流通在庫は、パリ同時テロやトルコ軍のロシア機撃墜などの地政学リスクを受けての価格の急落から塩漬け状態。

伸銅品生産の低調。伴う発生薄のトレンドは変わらが上記理由による玉不足から需給は引き締まつてゐるのではないか。

## 【価格・為替予想】

今月は、ECBの金融緩和時期と米国の利上げ問題に左右される。

ECBの金融緩和に関してはドラギ総裁が前回10月の会合後、「12月の理事会で金融緩和策の度合いを見直す必要がある」と表明。その後も積極発言を繰り返し、ECBが追加緩和に踏み切るのはほぼ確実な情勢ではないか?

米利上げ時期に関しては、先日の議会証言でFRBイエレン議長が12月の利上げの可能性はあるとコメントした事もあり今後の動向に注目。

それらを踏まえた12月の銅価格は、ECBが追加的金融緩和を行い、米国が今月の利上げを行わなかつた場合、11月高値の一段下4900ドルを予測。いずれかの場合は4700ドル。

下値はいずれの条件も達成できなかつた場合11月もう一段安値の4400ドル。

為替は、米FRBの利上げについて新たに12月説が台頭している。

ECBは追加金融緩和は前向きなことを考えれば利上げの可能性がある。

それらを踏まえ予測は

上値はアメリカが12月の利上げを示唆し、ECBが追加禁輸緩和をした場合新興国からの資金吸い上げそれに伴うドユーロ安ドル高の加速判断から大幅円高の119円台を予測。下値は利上げを行わなかつた場合ほぼ現状と変化なしとの判断から122円台。

銅建値に関しては570-640円程度と予測している。